

北方建築総合研究所 NEWS LETTER

北方かわらばん

Mail Magazine VOL.31 2012/3/8

「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所（旧・北海道立北方建築総合研究所）が発行しているメールマガジンです。

ホームページ等で配信登録された方にお送りしています。

アドレスを登録した覚えのない方、登録内容の変更、配信停止は【管理者からのお知らせ】をご覧ください。このメールアドレスは配信専用のため、返信できませんのでご了承ください。

※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。

=====
今月号のトピックス
=====

第31号の内容はこちらです。

■イベントのお知らせ

□北海道セミナー・シンポジウム

『住まいの「長期優良・省CO2化」を考える。』を開催します

□北総研調査研究発表会（旭川）を開催します

■特集 「構造計算適合性判定（適判）」の6年目

■研究紹介 構造計算適合性判定センターにおける調査研究

■依頼試験・設備使用・性能評価のお知らせ

■最近の研究所の動き

□防災ワンデー「釧路防災講演会2012」が開催されました

□地域の住まい・まちづくり懇話会（宗谷）を開催しました

□JFMA FORUM 2012で講演を行いました

- ウランバートル首都圏知事兼市長が来所されました
- 「2012木製サッシフォーラム まど・空間・そとをつなぐ」を開催しました
- 地域の住まい・まちづくり懇話会（留萌）を開催しました
- 自然災害シンポジウムが開催されました
- 学会発表
- 2月の業務報告
- 構造計算適合性判定センターから

=====
イベントのお知らせ
=====

■【北海道セミナー・シンポジウム

『住まいの「長期優良・省CO2化」を考える。』を開催します】

日 時：平成24年3月23日（金）10：30～16：30

会 場：すまい・るホール（東京・住宅金融支援機構本店）

主 催：北海道、道総研北方建築総合研究所

独立行政法人住宅金融支援機構北海道支店

社団法人北海道建築技術協会

北方型住宅ECO推進協議会

北海道R住宅事業者ネットワーク

共 催：国土交通省

国土交通省が公募した平成23年度補助事業「長期優良住宅先導事業」「住宅・建築物省CO2先導事業」に北海道や事業者等が共同提案したプロジェクト（北方型住宅ECO、北海道R住宅、北方型外断熱改修）が採択されるなど、道内ではこれからの北海道にふさわしい住まいづくりに取り組んでいます。このシンポジウムでは、北海道の住まいづくりについて事例を交えながらご紹介するとともに、技術的課題や今後の施策展開などをテーマにセミナー・シンポジウムを開催します。参加申し込みについてホームページ上にアップロードしている次の案内を参考に申し込み願います。

<http://www.nrb.hro.or.jp/pdf/120323sumai.pdf>

（企画課 伊藤）

■【北総研調査研究発表会（旭川）を開催します】

開催日：平成24年5月17日（木）

会場：大雪クリスタルホール（旭川市神楽3条7丁目）

毎年、旭川市内で春に開催している前年度終了課題の調査研究発表会について開催日と会場が上記のとおりとなっておりますのでお知らせします。

開催内容等、詳細については改めてご案内します。

（企画課 伊藤）

=====

特集 「構造計算適合性判定（適判）」の6年目

=====

◆「適判」のこれまで

構造計算書偽装事件発覚を契機に平成19年度から導入された「構造計算適合性判定制度」も5年度目を終え、4月から6年度目に入ろうとしています。この1月には依頼件数が通算で2000件（2600棟）を超えました。

この間、平成22年度からは地方独立行政法人化により指定機関となりましたが、公的機関として知事の判定と同様、建築における道民生活の安全安心のために、厳正適確に判定を実施する意識は変わりません。

期間も費用も増える新たな制度創設は疎まれるかも知れませんが、審査の長期化はもとより誰も望むところではなく、様々な方策で判定期間の短縮化に努めてきました。

例えば、設計者が速やかに補正等の対応が取れるよう、建築主事等への質疑事項をFAXで設計者に同時通知したり、質疑事項については原則面談によるヒアリングを行い、その設計意図を十分把握し、こちらの審査意図が正しく理解頂けるように努めています。また、構造審査担当者と審査上の情報共有を図るため、各振興局で構造審査研修会も行ってきました。

この結果、平成20年度には結果通知した依頼の総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均は37.5日、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均は19.0日でしたが、平成22年度には総判定日数の平均は31.6日、実判定日数の平均は9.8日となり、かなり短縮されてきています。さらに今年からはホームページ上で「審査状況のお知らせサービス」も開始しています。

また、審査技術の維持向上は大切で、技術基準の講習会等を受講したり、他の判定機関での研修などを行い、設計者の方々と設計に関する議論が適確に行えるよう新しい知識技術の習得を怠らないように努めています。

◆「適判」のこれから

一般に審査機関は好かれる存在ではなく、設計者にとって「適判」も同様かと思えます。しかし、もう一度制度創設のきっかけを思い起こして下さい。構造計算書が偽装され建築確認をくぐり抜けて建設された事件は居住者の安全を脅かし、このようなことが再び起きないよう多重のチェック体制が求められたものです。

このとき生じた建築への不信感に対し、審査者・設計者を問わず建築技術者として一体で信頼回復に努め、安全安心を示していかなければならないと考えます。制度によるデメリットとして挙げられる期間の増加にばかり目を向けるのではなく、まず目指すべきは確かな建築であり、設計者には遵法精神はもちろん、設計意図や計算過程が明確に把握できる図書類にまとめ表現する技術や、ユーザーに対する適確な説明が求められます。

私たちはこれからも、この適判制度創設の経緯を常に認識し法令に基づき淡々と厳正に判定を行います。しかし、「設計者」対「審査者」として敵対するものではないと考えています。ともに建築構造の専門家として、北海道の建築物の安全安心への思いは同じであると信ずるところです。同じ技術者として設計能力、審査能力を維持向上させ、立場を問わず技術的な議論ができる環境づくりを進めていければと思います。

(構造判定G 十河)

=====
研究紹介 構造計算適合性判定センターにおける調査研究
=====

建築確認審査の一環である「構造計算適合性判定」を円滑に進めるために、建築確認審査全体での構造審査や構造設計に役立つよう、「建築確認申請における構造審査等支援のための調査」を実施し、次のような情報収集・分析、情報提供を行っています。

(1) 構造審査・構造設計の参考となる情報提供

構造設計者が構造計算プログラムを用いて計算を進める際のモデル化や設定例を整理分析し、審査・設計時の参考となる情報としてまとめます。本年度までに、耐震壁や段差梁のモデル化および壁を含む架構のモデル化について計算プログラムやFEMを用いて整理します。また、設計に対する質疑事項とその傾向、国の示した運用改善（並行審査）の効果をまとめます。

これらは、構造審査者や構造設計者の方々の参考になるようホームページ等を通じて情報提供します。

(2) 構造審査者との情報共有

毎年、建築主事や構造審査担当者の方々にお会いし、構造審査の観点や最近の

問題、計算出力の要点、関係法令規準等に関する研修会を行っています。これにより審査上の情報を共有し、建築確認における構造審査の円滑化を図っています。同時に審査上の問題や疑問についての意見交換を実施しています。ここで集約した意見や審査上の疑問は、さらに整理分析してまた発信されます。

当センターが実施する調査研究は、審査の現場と一体となって進められ、構造審査を担当する方々とともに審査技術の向上をめざし、厳正適確で一貫性のある審査を迅速に進めるよう努めています。

(構造判定G 十河)

=====
依頼試験・設備使用・性能評価のお知らせ
=====

北総研で行っている、依頼試験・設備使用・性能評価の各業務について、ホームページに掲載しておりますが、改めてお知らせします。

○依頼試験

材料開発や技術開発の支援のため、建築関連企業などからの依頼により、建築物またはまちづくりに関する試験・調査、指導を行っています。

- ・強度または耐久に関する試験
- ・耐火または防火に関する試験
- ・熱、湿気または空気質に関する試験
- ・動風圧に関する試験
- ・音響に関する試験
- ・建築物またはまちづくりに関する試験
- ・建築物またはまちづくりに関する調査又は指導

* 詳細の可能試験、試験までの流れ、料金、申込用紙等については、下記からご覧下さい。

http://www.nrb.hro.or.jp/operate/irai_siken.html

○設備使用

材料開発や技術開発の支援のため、建築関連企業などの皆さまに各実験室、機械器具を利用いただくことができます。

- ・室内環境シミュレータ室
- ・外部環境シミュレータ室
- ・防音実験室

・ 風洞装置等

* 詳細の設備、設備利用までの流れ、料金、申込用紙等については、下記からご覧下さい。

http://www.nrb.hro.or.jp/operate/setubi_siyou.html

○性能評価

建築基準法に基づく指定資格検定機関等に関する省令第59条第1号、第2号、第8号の3に掲げる区分について業務を行っています。業務区域は日本全域です。

- ・ 第59条第1号 防耐火構造及び防火設備の耐火性能(壁、防火戸等)
- ・ 第2号 防火材料の不燃性能
- ・ 第8号の3 ホルムアルデヒド発散建築材料の性能
(JIS、JAS認定のない材料)

* 詳細の性能評価、評価までの流れ、料金等については、下記からご覧下さい。

<http://www.nrb.hro.or.jp/operate/seinouhyoukagyomu.html>

なお、依頼される内容や、機器の稼働状況により研究等との調整が必要となる場合がございますので、日程等につきましてはお問い合わせの上、ご相談くださるようお願いいたします。

連絡先：性能評価課 性能評価グループ

電話：0166-66-4240

=====

最近の研究所の動き

=====

■【防災ワンデー「釧路防災講演会2012」が開催されました】

1月15日(日)に釧路市立図書館において、「釧路防災講演会2012」が開催されました。(主催：釧路市連合町内会・釧路市連合防災推進協議会ほか、共催：北総研、釧路高専ほか)

この講演会は、1993年1月15日に発生した釧路沖地震災害を教訓にしたものです。

第一部の講演では、北大理学院地震火山研究観測センター長の谷岡勇市郎教授が「釧路地域の巨大地震津波に備えて」と題して講演し、続いて釧路高専の草苺敏夫教授から東北地方太平洋沖地震時の釧路市民の津波避難実態調査結果の

報告がありました。

第二部の北総研がコーディネーターとなった防災トークセッションでは、講師から津波から身を守るための実践方法についてのアドバイスがありました。

(性能評価課 南)

■【地域の住まい・まちづくり懇話会（宗谷）を開催しました】

2月7日（月）に宗谷総合振興局において、「地域の住まい・まちづくり懇話会（宗谷）」を開催しました。

当懇話会は、各地域の住宅、まちづくりに携わっている民間事業者を対象として、地域における問題や課題を今後の研究活動に繋げていくために実施しています。北総研から積雪障害への対応や省エネ住宅技術の研究成果を紹介した後、事業者の方々と意見交換をしました。強風による雪の問題や住宅の換気についてなど、宗谷の地域に根ざした課題の他にもたくさんのご意見を頂きました。今回頂いたご意見を基に、今後の研究に繋げていきたいと思えます。

(企画課 神田)

■【JFMA FORUM 2012で講演を行いました】

2月8日（水）～10（金）、東京都「タワーホール船堀」にて開催された、JFMA FORUM 2012（第6回 日本ファシリティマネジメント大会）で一般講演（セミナー）を行いました。このFORUMは我が国におけるFM（ファシリティマネジメント）の普及を図る目的で、各界オピニオンリーダーの講演・パネルディスカッション・会員が行う一般講演など、約70件のセミナーを集中開催するものです。

北総研では、一般講演で所の調査研究業務や北総研の建物に採用されている様々な設備・工夫などの省エネルギーに関する技術について所長瀧田が講演を行いました。また、ファシリティマネジメント関連話題として、主幹吉野が市町村建築物の計画的保全支援ツールについて講演を行いました。17時からの遅い時間帯での講演であったにもかかわらず40名以上の方に聴講して頂き、また、雪冷房や氷冷房の効果、保全支援ツールの使用方法などに関して5分の質疑応答時間を超える活発な議論あり、関心の高さに意を強くした次第です。

これからも機会をとらえて啓発普及に努めたいと思えます。

(構法材料G 吉野)

■【ウランバートル首都圏知事兼市長が来所されました】

2月9日（木）、モンゴル国よりゴムボスレン・ムンフバヤル首都圏知事兼市長以下7名が来所されました。

内陸性気候で厳しい気象条件のウランバートル市では、エネルギーの有効利用についての関心が高く、寒冷地における建築関連技術等について技術交流を行っています。

今回の来庁では、北総研庁舎に取り入れられている氷や雪エネルギーの利用、昼光利用、温度差を利用した自然換気システムなどの環境負荷低減技術について説明した後、意見交換を行いました。

（企画課 伊藤）

■【「2012木製サッシフォーラム まど・空間・そとをつなぐ」を開催しました】

2月10日（金）に、「2012木製サッシフォーラム まど・空間・そとをつなぐ」を旭川市大雪クリスタルホールで開催し、猛吹雪の悪天候にもかかわらず約100名の方に来場いただきました。

（道総研林産試験場、北海道木製窓協会との共催）

講演では、まず「窓からつながるエクステリアウッド」と題して、東京大学大学院農学生命科学研究科の信田准教授より、屋外施設木質化のポイントなどについてお話しいただき、続いて建築家の五十嵐淳さんから、「窓を住まいから考える」というタイトルで、内部と外部の緩衝空間についての御自身の設計作品での展開や、伝統建築での事例から学ぶべきことなどの興味深いレクチュアをしていただきました。続いて当所環境科学部長の鈴木より、これからの窓が持つべき機能や役割、そのための技術開発などについてプレゼンテーションを行い、続いて3人の講師と会場の皆様を交えて意見交換を行いました。

建築や住宅の省エネルギー性において窓は極めて重要な役割を持っていますが、日本は高性能の窓の開発が欧州に較べ遅れている現実があります。また窓は内外を遮断するだけでなく、内部空間と外部環境をとりもつ最も建築で「面白い」部分でもあり、様々な工夫ができるところです。当所では道内外の様々な企業の方々と協働して窓に関する種々の研究開発を行っており、今後もそれらの研究成果などについての情報発信に努めてまいります。

（企画課 本荘）

■【地域の住まい・まちづくり懇話会（留萌）を開催しました】

※※※

■【2月の業務報告】

平成24年2月の受付件数

□依頼試験（担当：性能評価課）

依頼試験 13件（累計 124件）

設備使用 4件（累計 30件）

性能評価 4件（累計 12件）

□施設見学（担当：企画課）

件数 7件（累計 70件）

人数 38名（累計1012名）

□技術相談（担当：企画課）

件数 23件（累計 205件）

※累計は、平成23年4月～平成24年2月の累計を表示しています。

※※※

■【構造計算適合性判定センターから】

□2月の判定業務

受付 43件（66棟）

結果通知 18件（21棟）

2月の判定依頼は、共同住宅12件、工場等6件、医療施設5件、事務所5件の他、学校、寺院等でした。

総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均は29.3日、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均は6.6日でした。

（構造判定G 十河）

※※※

【編集後記】

例年に比べ寒さが厳しかったこの冬ですが、旭川でもやっと春の気配が感じられるようになってきました。

この時期は、研究報告のとりまとめや、学会論文の締め切り、研究課題評価や外部との会議開催など年度末のとりまとめ業務に職員が奔走しています。同時に旭川での調査研究発表会など、新年度の準備も始めており、予定が決まりましたら順次このメルマガでご案内致します。

今後もこのメルマガの内容をよりよいものとさせていきたいと思っておりますので、皆様方からも情報やご意見などありましたら是非お寄せください。

(企画課 古屋)

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。